

0.1 H19 数学必修

[1] (1) $\det A = \begin{vmatrix} 1 & a & 1 \\ a & 1 & 1 \\ 1 & 1 & a \end{vmatrix} = -(a+2)(a-1)^2$ である.

(2) $a = -2$ のとき $\begin{pmatrix} 1 & -2 & 1 \\ -2 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -2 & 1 \\ 0 & -3 & 3 \\ 0 & 3 & -3 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -2 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ より, $\text{rank} A = 2$ である.

$a = 1$ のとき $\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ より, $\text{rank} A = 1$ である.

$a \neq -2, 1$ のとき, A は正則であるから $\text{rank} A = 3$ である.

(3) $\text{rank} A = 2$ より $a = -2$ である. 固有値は $g_A(t) = \begin{vmatrix} 1-t & -2 & 1 \\ -2 & 1-t & 1 \\ 1 & 1 & -2-t \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1-t & t-3 & 1 \\ -2 & 3-t & 1 \\ 1 & 0 & -2-t \end{vmatrix} =$

$(t-3) \begin{vmatrix} 1-t & 1 & 1 \\ -2 & -1 & 1 \\ 1 & 0 & -2-t \end{vmatrix} = (t-3) \begin{vmatrix} -1-t & 0 & 2 \\ -2 & -1 & 1 \\ 1 & 0 & -2-t \end{vmatrix} = (t-3)(-1) \begin{vmatrix} -1-t & 2 \\ 1 & -2-t \end{vmatrix} = -(t-3)((-1-t)(-2-t)-2) = -(t-3)t(t+3)$ より $-3, 0, 3$ である.

(4) $\text{rank} A = 1$ より $a = 1$ である. 固有値は $g_A(t) = \begin{vmatrix} 1-t & 1 & 1 \\ 1 & 1-t & 1 \\ 1 & 1 & 1-t \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} -t & t & 0 \\ 1 & 1-t & 1 \\ 0 & t & -t \end{vmatrix} =$

$t^2 \begin{vmatrix} -1 & 1 & 0 \\ 1 & 1-t & 1 \\ 0 & 1 & -1 \end{vmatrix} = t^2 \begin{vmatrix} -1 & 1 & 0 \\ 0 & 2-t & 1 \\ 0 & 1 & -1 \end{vmatrix} = -t^2 \begin{vmatrix} 2-t & 1 \\ 1 & -1 \end{vmatrix} = -t^2(-(2-t)-1) = t^2(t-3)$ より $0, 3$ である.

$A(A-3E) = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -2 & 1 & 1 \\ 1 & -2 & 1 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix} = O$ より, 最小多項式は $x(x-3)$ である.

[2] (1) $\theta = 2\pi/3$ とすると, $A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ である. よって $A^3 = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ であるから A の位数は 3 である.

(2) E を単位行列とする. $X = \{(1, 0), (\cos 2\pi/3, \sin 2\pi/3), (\cos 4\pi/3, \sin 4\pi/3)\}$ とすれば, A, B は X の置換作用である. したがって $\langle A, B \rangle \leq S_3$ である. $|\langle A, B \rangle| \geq |\{E, A, A^2, B\}| = 4$ であるから, ラグランジュの定理より $\langle A, B \rangle = S_3$ である. すなわち位数は 6.

(3) $\langle A, B \rangle = S_3$ より $\langle A, B \rangle = \{E, A, A^2, B, AB, A^2B\}$ である. また $A^2B = BA$ が成り立つ.

$E^{-1}BE = B, A^{-1}BA = A^2A^2B = AB, A^{-2}BA^2 = A^{-2}A^4B = A^2B$ である. また置換とみなしたときに共役では置換の符号は変わらず, A は偶置換, B は奇置換であるから, B と置換の符号が等しいのは AB, A^2B のみ. よって B の共役は B, AB, A^2B である.

(4) 真部分群は 6 未満の 6 の約数を位数としてもつから 1, 2, 3 のいずれかで巡回群. S_3 の位数 3 の元は二つあり, それは A, A^2 に対応することに注意すれば部分群は $E, \langle A \rangle, \langle B \rangle, \langle AB \rangle, \langle A^2B \rangle, \langle A, B \rangle$ である.

[3] (1) $(x, y) = (r \cos \theta, r \sin \theta)$ ($r \geq 0, 0 \leq \theta < 2\pi$) とすると, $f(x, y) = f(r \cos \theta, r \sin \theta) = rf(\cos \theta, \sin \theta)$ である. $S_1 = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x^2 + y^2 = 1\}$ とすると, $f|_{S_1}$ は S_1 上の連続関数である. S_1 はコンパクトであるか

ら, $f|_{S_1}$ は最大値 M , 最小値 m をもつ. f は S_1 上で正の値をとるから, $M \geq m > 0$ である.

よって $rm \leq rf(\cos \theta, \sin \theta) \leq rM$ であるから, $m\sqrt{x^2+y^2} \leq f(x, y) \leq M\sqrt{x^2+y^2}$ である.

(2) $f_x = 3x^2 + 1 - 4y, f_y = -4x - 4y, f_{xx} = 6x, f_{yy} = -4, f_{xy} = -4$ である. $f_x(x, y) = f_y(x, y) = 0$ となる (x, y) は $(-1, 1), (-1/3, 1/3)$ である.

$(-1, 1)$ でのヘッシアンは $\begin{pmatrix} -6 & -4 \\ -4 & -4 \end{pmatrix}$ であるから, 負定値である. よって極大値 $f(-1, 1) = 0$ である.

$(-1/3, 1/3)$ でのヘッシアンは $\begin{pmatrix} -2 & -4 \\ -4 & -4 \end{pmatrix}$ であるから, 不定値である. よって極値をとらない.

(3) 体積は $B = \int_V dx dy dz$ である. $x = s^2, y = t^2, z = u^2, s, t, u \geq 0$ とするとヤコビアンは $2s2t2u = 8stu$ である. 積分領域は $\{(s, t, u) \mid 0 \leq s, t, u, s+t+u = 1\}$ である. よって

$$\begin{aligned} B &= \int_0^1 \int_0^{1-u} \int_0^{1-s-u} 8studsdu \\ &= 4 \int_0^1 u \int_0^{1-u} s(1-s-u)^2 ds du \\ &= 4 \int_0^1 u [s^4/4 - 2s^3(1-u)/4 + (1-u)^2 s^2/2]_0^{1-u} du \\ &= 4 \int_0^1 u((1-u)^4/4 - 2(1-u)^4/4 + (1-u)^4/2) du \\ &= \int_0^1 u(1-u)^4 du = B(2, 5) = \frac{\Gamma(2)\Gamma(5)}{\Gamma(7)} = \frac{1}{30} \end{aligned}$$

[4] (1) $\lim_{n \rightarrow \infty} n^2 a_n = \alpha$ とする. $\lim_{n \rightarrow \infty} |n^2 a_n - \alpha| = 0$ より任意の $\varepsilon > 0$ に対してある N が存在して $n > N$ ならば $|n^2 a_n - \alpha| < \varepsilon$ である. すなわち $|a_n - \alpha/n^2| < \varepsilon/n^2$ より $|a_n| < \varepsilon/n^2 + \alpha/n^2$ である.

よって $\sum_{n=1}^{\infty} |a_n| < \sum_{n=1}^{\infty} (\varepsilon/n^2 + \alpha/n^2) < \infty$ より $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は絶対収束する. すなわち収束する.

(2) $\lim_{n \rightarrow \infty} n a_n = \alpha$ とする. $\alpha > 0$ としても一般性を失わない. ($\because \alpha < 0$ なら $-a_n$ を考えればよい.)

したがってある $N \in \mathbb{N}$ が存在して $n \geq N$ ならば $n a_n > \alpha/2$ である. よって $n > N$ ならば $a_n > \alpha/2n$ である. すなわち $\sum_{n=N}^{\infty} a_n \geq \sum_{n=N}^{\infty} \alpha/2n = \infty$ であるから, $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ は発散する.

[5] (1) $A_t = f^{-1}(\{y \in \mathbb{R} \mid y < t\})$ である. $\{y \in \mathbb{R} \mid y < t\}$ は開集合であり, f は連続であるから A_t は開集合.

(2) $x \in X$ は $x \in A_{f(x)+1}$ であるから $X \subset \bigcup_{t \in \mathbb{R}} A_t$ である.

(3) X はコンパクトであるから, $f(X)$ はコンパクト, すなわち有界閉集合で最大値 M をもつ. よって $X \subset A_{M+1}$ である.